

徳島県ひきこもりに関する 実態調査の結果について

令和元年12月
徳島県保健福祉部健康づくり課

1. 目的

この調査は、いわゆる”ひきこもり”状態の方の実態把握のため、県内全域において調査を実施し、地域における概況を知ることによって今後の支援体制を検討する際の基礎資料とすることを目的としている。

2. 調査方法

県内全ての市町村の民生委員・児童委員へ調査表を配布。ひきこもり該当者やその家族への新たな聞き取り等を行わず、委員が既に知っている情報について記載していただいた。

3. 調査対象

当調査では、概ね次のような方を”ひきこもり”状態にある方とした。

概ね15歳以上で、病気や障がい・老齢といった理由無く、
直近6ヶ月以上に渡り、仕事や学校に行かず、
家族以外との交流がほとんど無く、
外出しない（買物程度の外出は除く）方

4. 調査時点

平成31年4月1日現在

5. 回収状況

民生委員・児童委員 1628 人（ 81.6% ）

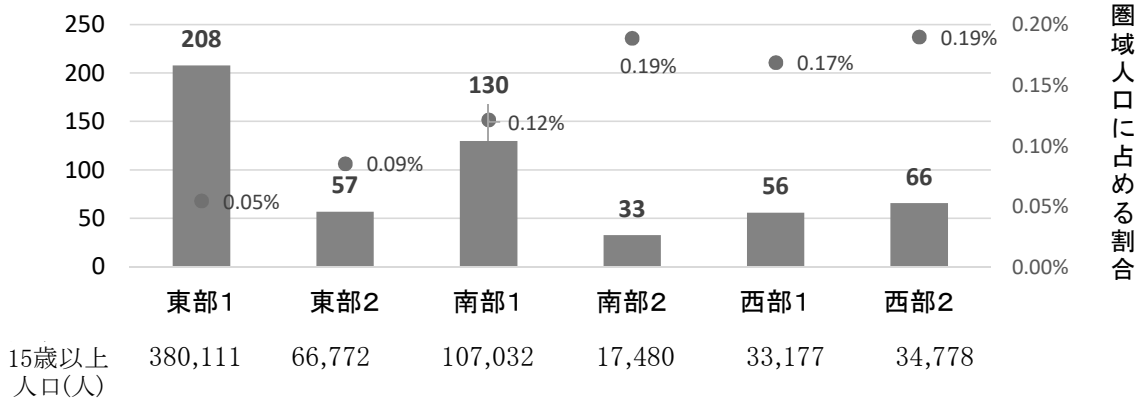
委員1,996人中※欠員除く

(1) ひきこもり該当者の人数

今回の調査の結果、回答いただいた民生委員・児童委員のうち、ひきこもりに該当すると思われる方を把握していると回答された委員が371人、該当者が550人となった。
この人数は、本県の15歳以上人口割合で約0.09%となる。

参考：徳島県の15歳以上人口：639,350人（徳島県年齢別人口推計平成31年4月時点）

圏域別ひきこもり該当者数 合計 550人

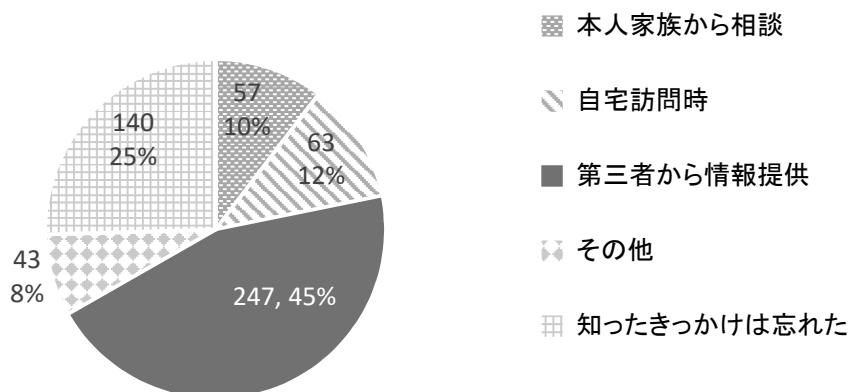


各圏域は **東部1**…徳島市、鳴門市、名東郡、名西郡、板野郡 **東部2**…吉野川市、阿波市
南部1…小松島市、阿南市、勝浦郡、那賀郡 **南部2**…海部郡 **西部1**…美馬市、美馬郡 **西部2**…三好市、三好郡

(2) ひきこもり該当者を知ったきっかけ

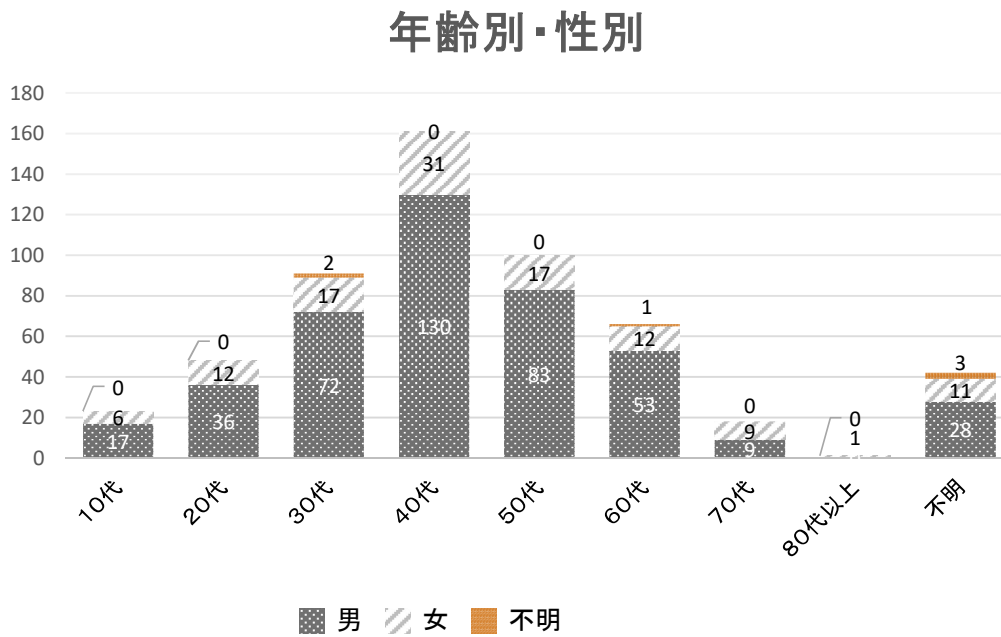
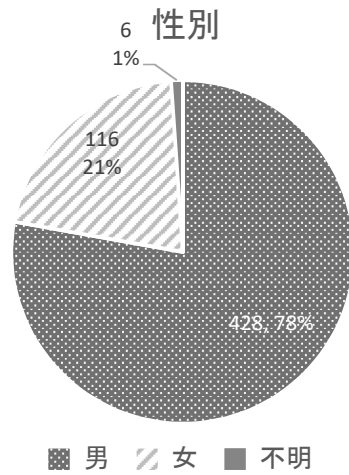
民生委員・児童委員がひきこもり該当者の存在を知ったきっかけとしては、関係機関や近所の方など第三者からの情報提供が約半数を占める一方、自宅訪問時や本人家族からの相談をきっかけとしたケースもあった。

知ったきっかけ



(3) ひきこもり該当者の性別・年齢

ひきこもり該当者の性別については男性が約8割を占める。年齢については40代がもっとも多く約3割を占めている。中高年齢層のひきこもり該当者が増加していると言われる状況の一端を示している。



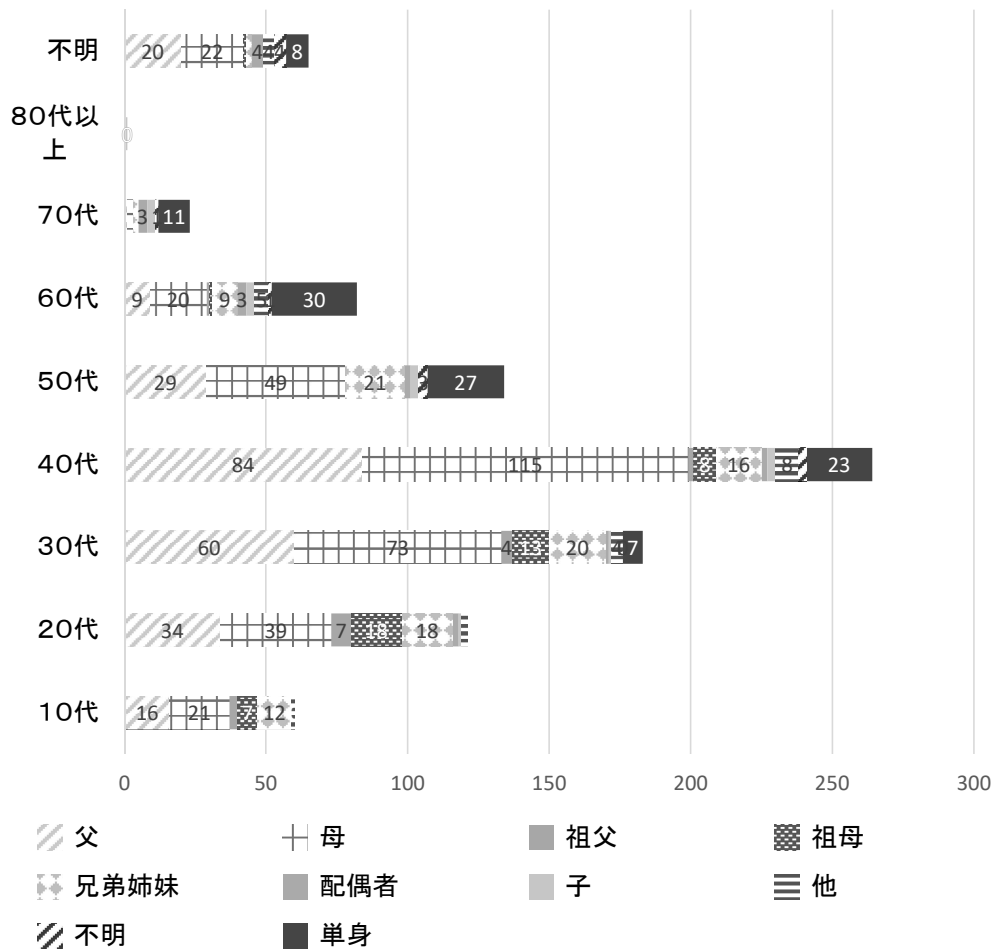
(4) ひきこもり該当者の世帯状況

ひきこもり該当者を含む世帯の構成については、中高年層では単身や親のみの世帯が増えている。

また、いわゆる「8050(ハチマルゴーマル)問題」*に該当する可能性がある、本人が40～60歳代で、父母のみと暮らしている世帯は166世帯あった。

※8050(ハチマルゴーマル)問題とは、80歳代の高齢の親と50歳代の中高年のひきこもり該当者のみの家庭において、主な収入が親の年金だけであったり、高齢化する親の介護やその没後のひきこもり該当者の生活をどのように成り立たせていくかという問題。本調査ではひきこもり該当者に別居している親族がいるかどうか不明である。

世代別家族構成



(単位:人)

本人	本人	父	母	祖父	祖母	兄弟姉妹	配偶者	子	他	不明	単身	世代割合
10代	23	16	21	3	7	12	0	0	1	0	0	0%
20代	48	34	39	7	18	18	2	1	2	0	0	0%
30代	91	60	73	4	13	20	1	1	4	0	7	8%
40代	161	84	115	2	8	16	2	3	8	3	23	14%
50代	100	29	49	0	0	21	2	3	0	3	27	27%
60代	66	9	20	1	1	9	3	3	5	1	30	45%
70代	18	1	2	0	0	2	3	3	0	1	11	61%
80代以上	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0%
不明	42	20	22	0	1	2	4	0	4	4	8	19%
計	550	253	341	17	48	100	17	15	24	12	106	19%

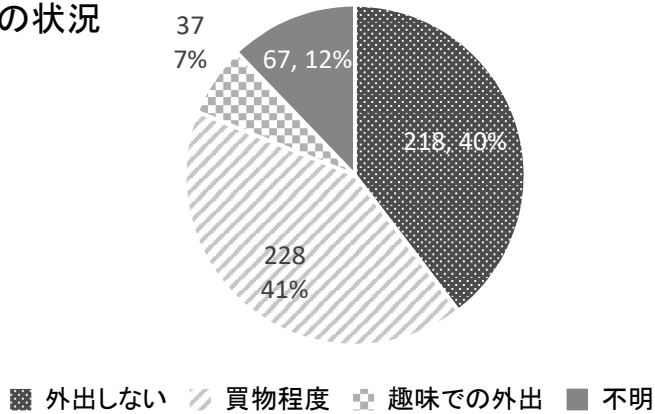
再掲

本人と父のみ	本人と母のみ	本人と両親のみ
0	2	5
1	4	8
5	14	28
11	40	53
11	24	12
1	10	4
0	1	0
0	0	0
4	7	12
33	102	122

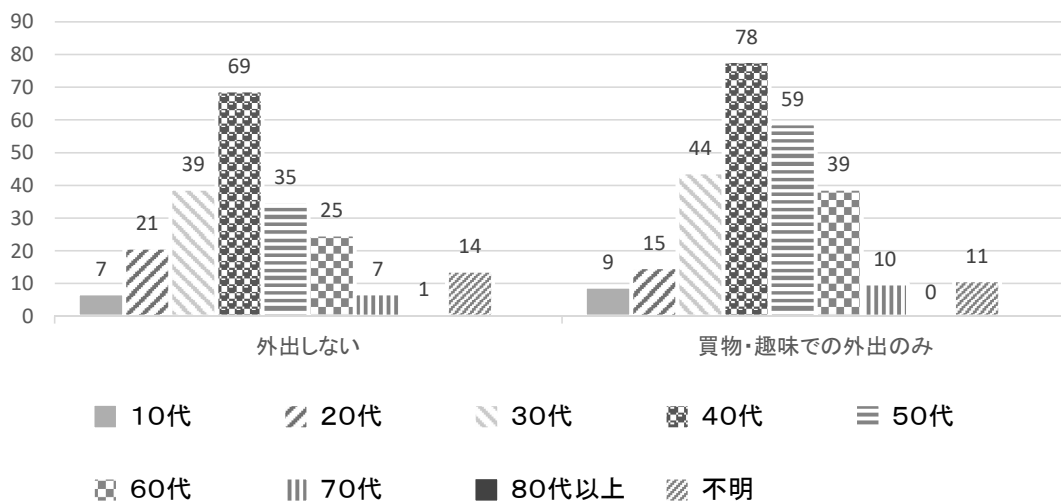
(5) ひきこもり該当者の外出状況

外出の状況については、外出しない人が約4割となっている。

外出の状況



年齢別外出状況



世帯構成別外出状況

家族と同居の方……	432 人	うち外出しない方…	197 人 (46%)
独居の方……	106 人	うち外出しない方…	21 人 (20%)

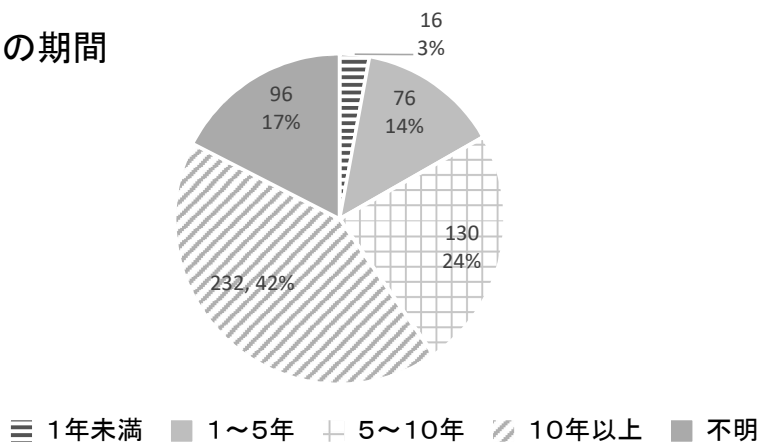
※不明除く

(6) ひきこもり状態にある期間

ひきこもりの期間については10年以上が最も多く約4割、ついで5～10年が約2割を占めている。

このことから、ひきこもりの長期化がうかがわれる。
自由記載欄では30年以上の事例も見受けられた。

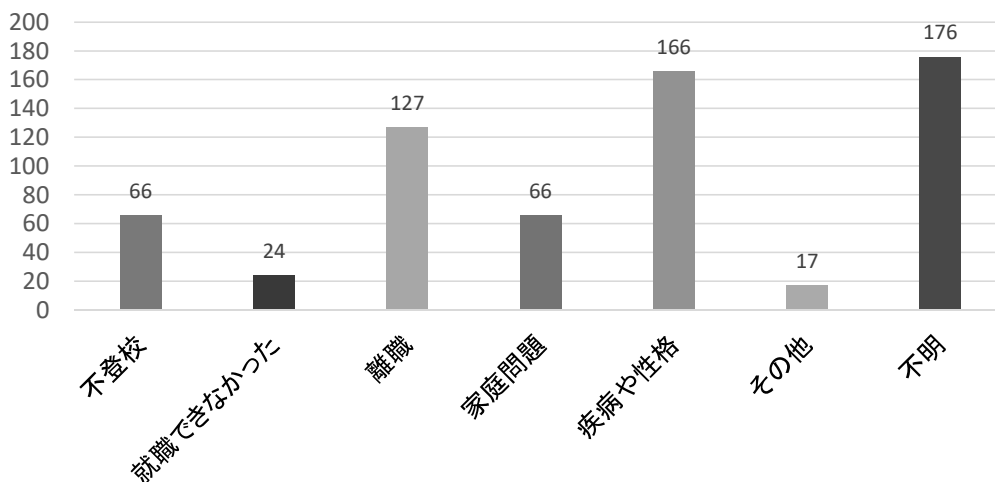
ひきこもりの期間



(7) ひきこもり状態に至った理由(複数回答)

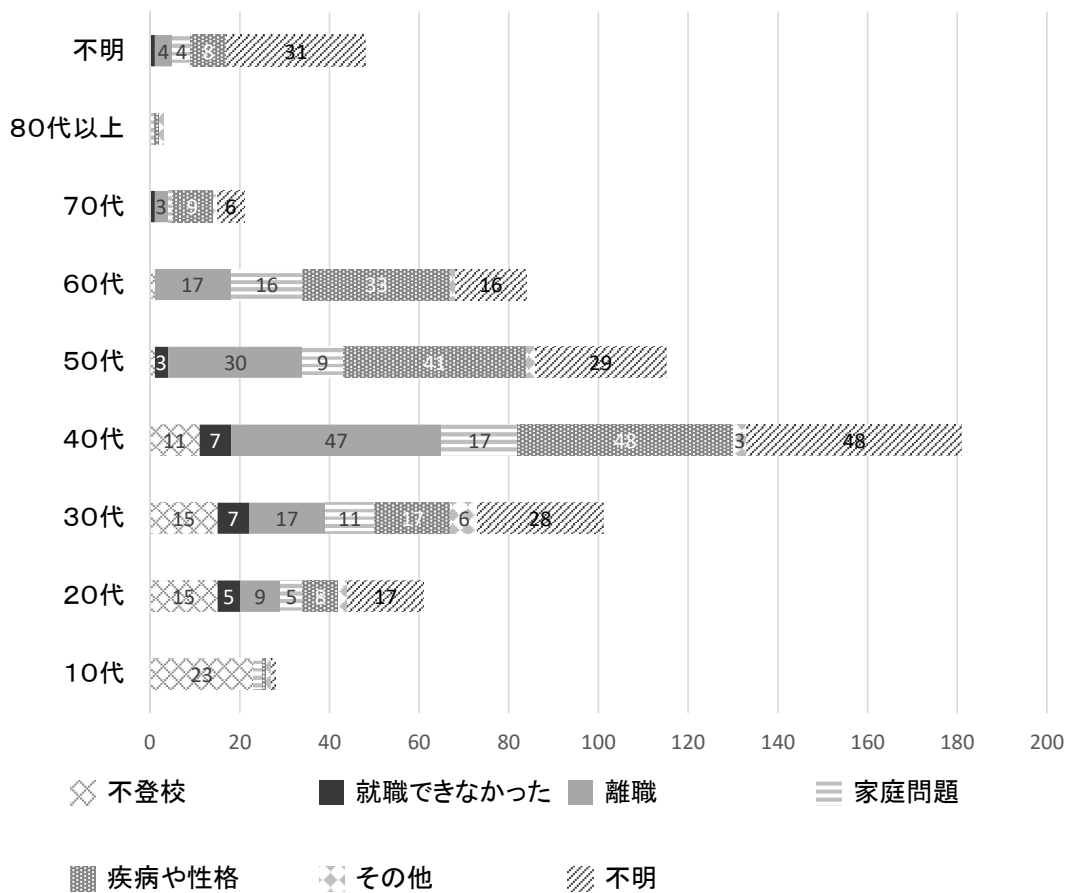
ひきこもりに至った理由としては疾病や性格によるものが約3割、離職をきっかけとしたものが約2割となった。(複数回答)

ひきこもりに至った理由(原因別件数)複数回答



世代別にみた場合、若年層は不登校や就職できなかったことがきっかけとなり、中高年層は離職や家庭問題が原因でひきこもり状態に至っている事例が多く見受けられる。

世代別



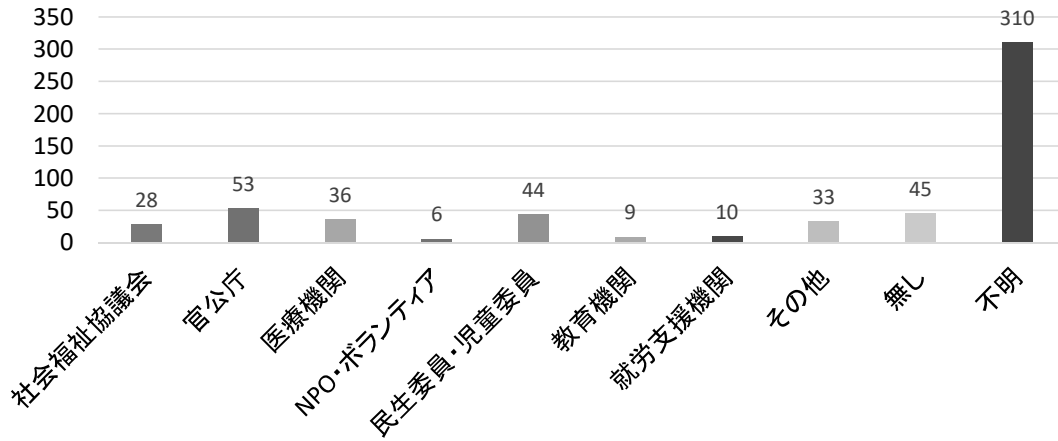
(単位:人)

本人	不登校	就職できなかった	離職	家庭問題	疾病や性格	その他	不明
10代	23	0	0	2	1	1	1
20代	15	5	9	5	8	2	17
30代	15	7	17	11	17	6	28
40代	11	7	47	17	48	3	48
50代	1	3	30	9	41	2	29
60代	1	0	17	16	33	1	16
70代	0	1	3	1	9	1	6
80代以上	0	0	0	1	1	1	0
不明	0	1	4	4	8	0	31
計	66	24	127	66	166	17	176

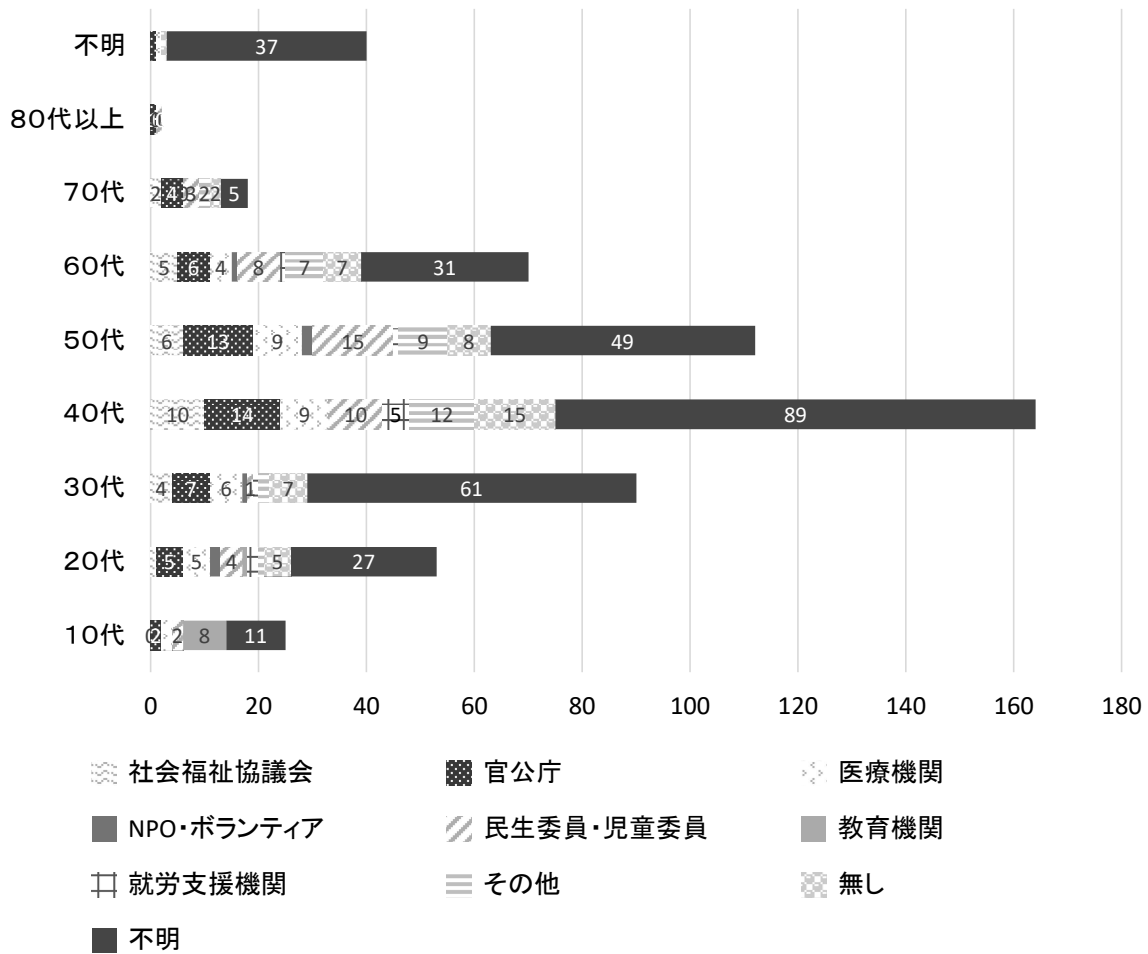
(8) ひきこもり該当者への支援状況

当事者及びその家族への支援の状況については、民生委員・児童委員による対応のほか、生活保護担当等の官公庁(役場)や、医療機関、社会福祉協議会が行っているが、半数以上の方が不明となっている。

当事者・家族が受けている支援(複数回答)



世代別支援の状況



(単位:人)

本人	社会福祉協議会	官公庁	医療機関	NPO・ボランティア	民生委員・児童委員	教育機関	就労支援機関	その他	無し	不明
10代	0	2	2	0	2	8	0	0	0	11
20代	1	5	5	2	4	1	2	1	5	27
30代	4	7	6	1	1	0	1	2	7	61
40代	10	14	9	0	10	0	5	12	15	89
50代	6	13	9	2	15	0	1	9	8	49
60代	5	6	4	1	8	0	1	7	7	31
70代	2	4	0	0	3	0	0	2	2	5
80代以上	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
不明	0	1	1	0	0	0	0	0	1	37
計	28	53	36	6	44	9	10	33	45	310

(9) その他の御意見

調査に御協力いただいた民生委員・児童委員の皆様からは、自由記載欄に次のような御意見・御要望をいただきました。

- ・今は家族も楽しく過ごしているが、高齢になった際にどう生活していくかが心配。
- ・接触しようとしたが家族がひきこもりを認めず、引っ越しして連絡出来なくなった。
- ・家族に聞いても何も言わないため、介入しづらい。
- ・小規模単位で集まれる場所を作って欲しい。
- ・ひきこもりに関する周知パンフレットを全世帯に配布し、行動を起こすきっかけを作って欲しい。
- ・本人家族は隠そうとする。表に出るのは一部のケースだと思う。
- ・好きでのんびり暮らしている人もいるので、一律に問題視するべきでない。